



南アルプスの動植物

山地（標高 800m 以上）に生育・生息する動植物

南アルプスに生育・生息する動植物種

調査項目	確認種数	絶滅のおそれのある種				特徴的な種			
		法令 条例	IUCN RL	環境省 RDB・RL	県(3県) RDB	日本 固有種	南アルプス 限定種	分布 限定種	南限種
維管束植物	138科 1,635種	33種	30種	148種	412種	535種	25種	148種	180種
蘚苔類	51科 248種	—	1種	22種	21種	—	—	—	—
地衣類	15科 98種	—	—	3種	12種	—	—	—	—
ほ乳類	15科 39種	3種	33種	9種	21種	26種	—	2種	2種
鳥類	35科 102種	4種	83種	13種	36種	5種	—	1種	1種
は虫類	4科 9種	—	—	—	4種	6種	—	—	—
両生類	4科 9種	1種	8種	2種	7種	9種	—	1種	—
魚類	3科 7種	—	1種	2種	3種	3種	—	—	—
貝類	16科 45種	—	—	16種	7種	43種	—	10種	—
昆虫類	179科 2,871種	4種	—	19種	130種	987種	36種	210種	56種
計	460科 5,063種	45種	155種	234種	653種	1,614種	61種	372種	239種

「法令・条例」欄の種数は、「文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）」、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）」、「山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例（平成 19 年条例第 34 号）」及び「長野県希少野生動植物保護条例（平成 15 年条例第 32 号）」に掲載の種を示す。

南アルプスの世界自然遺産登録に向けては、「地球規模での顕著で普遍的な価値」を明らかにする必要があります。

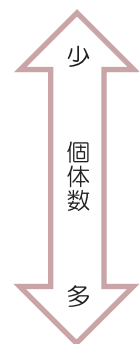
静岡市は、南アルプス全域に生育・生息する動植物種を対象として、平成 19 年度に既存文献の収集・整理により生物リストを作成し、平成 20 年度には、より精度の高いリストとするため、専門家への意見聴取を行い、リストの見直しを行いました。

表は、南アルプスの標高 800m 以上に生育・生息する動植物の種数を示しています。IUCN（国際自然保護連合）等による絶滅のおそれのある種や日本固有種、分布限界種（日本における南限種）も多く、南アルプスにおける生物の多様性を示しています。

南アルプスの動植物の特徴

南アルプスには、植物 1,981 種、動物 3,082 種が確認されています。このうち、絶滅のおそれのある種は植物 483 種、動物 292 種、日本にのみ分布する種は植物 535 種、動物 1,079 種、日本では限られた地域に分布する種は植物 148 種、動物 224 種、日本における分布の南限となっている種は植物 180 種、動物 59 種など、南アルプスは生物の多様性が高い地域といえます。南アルプスには、様々な環境に応じて生きてきた多様な植物を観察することができ、それがさらに多様な動物の生息基盤ともなっているのです。

南アルプスに生育・生息する動植物



○絶滅のおそれのある種…法令や条例で保護されている種、IUCN・環境省・県のレッドデータブック等に掲載されている種。これらの種は、個体数の減少や生育・生息状況の悪化、再生産能力を上回る捕獲・採取にさらされている、あるいは交雑のおそれのある別種が侵入している等により影響を受けている種。

○分布範囲が限定される種…日本固有種（分布域の狭い種）、南アルプス限定種、本州中部限定種等。

○移動や環境が限定される種…移動・分布拡大能力の低い動植物、特定の植物を餌とする昆虫類、厳しい環境に生きる植物等。

○分布域が南限の種…南アルプスが日本における分布の南限となる種。

○広範囲に分布する種…日本固有種（分布域の広い種）、日本以外にも広く分布する種等。

植物相—南アルプスの特徴を示す植物には、「氷河期の遺存植物」と呼ばれるキタダケソウ、チョウノスケソウ、ムカゴトラノオ、タカネマンテマ、ムカゴユキノシタ等があり、これらは北半球の寒冷な地域に近縁種や同種が分布するものの、日本における南アルプス限定種又は分布の南限となっています。これらの種は、大陸と陸続きであった時代に渡ってきた植物が遺存分布し、一部は種レベルまで分化していった過程を顕著に表していますが、このように温暖な太平洋岸に近い場所にあって、3,000m級の山々を持つ南アルプスには、氷河とともに南下してきた分布の南限となっている種が多くあります。また、南アルプスには、石灰岩地、岩隙地・風衝地、崩壊地、雪田などの特殊環境に生育する植物も多く分布しています。これらの特殊環境に生育する植物は、その環境に適応することで他の植物との競合を避け、南アルプスという地で生き残ってきたのです。

動物相—南アルプスの特徴を示す動物には、「氷河期の遺存動物」と呼ばれるライチョウがあり、北半球の寒冷な地域に同種が分布するものの、日本固有亜種であり、本州中部の高山地帯にのみ生息しています。ライチョウの生息場所としては、南アルプスが日本における南限、世界における南限ともなっています。日本に生息する動物は、高い移動能力をもつ鳥類を除き、日本にのみ生息する固有種が多く、大陸と陸続きであった時代に渡ってきた動物が遺存分布し、種レベルまで分化していった過程を顕著に表しています。また、南アルプスには、移動能力の低い種や、特定の環境や気候、餌となる植物が限定される種もあり、両生類のアカイシサンショウウオや高山蝶のクモマツマキチョウ、クモバニヒカゲ、タカネキマダラセセリ等、魚類のヤマトイワナは限られた地域に生息しています。